

## はなみずき賞

### 日本の緑と水と土

青南小学校 大坪 まや

自然は、大切であるがだれもがいいいますがいったい自然とは、なぜそれほど大切なのか考えたことがありますか。私は、「森は生きている」という本から自然の大切さを学びました。

人間にとって木のない生活は、考えられません。家のなかを見まわして見てみると、私たちは、木に囲まれています。柱もゆかもてんじょうも、しょうじもそして、ドアにも木が使われています。その他にも、つくえやいす、たんすなど、数えあげればもう切りがありません。そればかりではなく、人が呼吸をする。火をつけるのに必要な酸素も多くを木が出してくれています。さらに、水道の蛇口の水も森林がとどけてくれるのです。だから、もし木がなくなったら……と想像してみるだけで、改めて、木の大事さが感じられます。

では、その森林はだれが育てているのでしょうか。私達は一週間で一立方メートル／人の木を消費しています。しかし森林はなくなりません。それは、人間が、木を切った分だけ、苗木を植えつける林業が発達しているからです。

つまり、人間は、木の消費者でもあり、また生産者でもあるということです。

日本は、国土のおよそ七割が森林です。しかし、オランダやイギリスでは一割にもならないし、アルプスの国やスイスもおよそ四割にしかありません。あの緑の多そうなのに、イッでも国土の三割たらずです。ゆたかな森林にめぐまれているということは水も豊かだということになります。そして、土も豊かな国だということです。ヨーロッパの風景を思い浮かべてみて下さい。お寺などの中の彫刻も、日本ではたいてい木を使いますが、ヨーロッパの場合たいていは石ですね。古い町には、石やれんがの建物が目立つヨーロッパの国々とは、異なった自然環境があるのです。

私は、この本から自然の大切さ、そして、それを、支えているのもこわしているのも、人間だと知りました。木以外にも、森林に住んでいる動物も、人間にとつては、かけがえない存在です。このようなことを、私が読んだこの本に教えてもらいました。そして、これからも、自然と、共存していくためにも自然の大切さに気づき、やるべきこととは何か考え実行することが大切だと思います。